

公明党議員団研究研修報告書

1 研究研修項目

第13回全国市議会議長会研究フォーラム

2 研究研修場所

宇都宮市文化会館

(栃木県宇都宮市明保野町7-66)

3 実施年月日

平成30年11月14日～11月15日

研究研修報告書

実施年月日	平成30年11月14日(水)～15日(木)
研究研修場所	宇都宮市文化会館(栃木県宇都宮市)
研究研修項目	第13回全国市議会議長会研究フォーラム
参加者	公明党議員団(大村 聡、泉 清秀)
研究研修内容	<p>今回のフォーラムは、「議会と住民の関係」をテーマに、人々の社会と生活が大きく変化する時代において、地方自治の根幹をなす議会が住民とどのように関わり、どのようにすれば住民の議会に対する関心を高めることができるかについて、各分野の専門家、識者、議員の方々による活発な意見の交換により、幅広く具体的な討議がなされた。</p> <p>基調講演では、人口減少が深刻化し、高齢者人口がピークを迎える2040年問題を乗り越えるため、ピンチをチャンスに変え、現実化するための政治の役割は大きく、生涯にわたりずっと住民の出番があるまちづくりに取り組むことなどが提起された。パネルディスカッションでは、地域の課題と現状を踏まえ、議会と住民の関係について討議された。課題討議では、議会と住民の関係について、先進事例が報告された。</p>
所 感	<p>地方議会において議会基本条例を制定し、議会改革を進めていく流れが生まれてから12年余りが経過し、議会報告会の開催、議会の情報発信の強化、議員間討議を軸とした議会運営など、現在では多くの議会で行われる活動となっている。こうした取り組み以前の議会活動を知る議員や事務局職員、議会に参加する市幹部職員などにとっては、議会が大きく変わっているとの実感はあるものとする。しかしながら、肝心の住民一人ひとりがその違いを実感しているかと言えば、そうではないとの感が否めない。</p> <p>議会改革が必要とされた原点にかえて、改めて何を指すべきなのかを再確認し、目指すべき方向に向けての再起動、リセットの必要性を感じている。また、議会は「議会をよくしていこう」と取り組んでいるが、市民に視線が向いているかと問うと必ずしもそうとは言えない状況がある。議会改革で住民にとって何がよくなっているのかを、本市においても、改めてその成果を踏まえ考える時が来ていると再確認したフォーラムともなった。</p> <p>基調講演での「ずっと出番のあるまち」、パネルディスカッションでの今井照氏の「自治体政治の総量を上げる」、課題討議での犬山市議会の「市民参加と議会機能向上」などは大変に参考となる見解・事例であった。</p>